

な か ま

発行

佐倉市立中央公民館
な か ま 編 集 係

〒285-0025

佐倉市 錦木町 198-3

電話 (043) 485-1801

2 ページ	父と我が家のこと	松崎 正剛	七十歳になって思う	酒匂 幸男
3 ページ	私とテニス	山田 美和	愛犬の思い出	亀田 永子

ふる里

長田 紀子

三月は年度末であると同時にまた、出発の月でもあると、言えるのではないだろうか。例えば、学校を卒業した若者たちが、次へのステップとして、社会へ足を踏み出す月でもあるのです。

新しい土地への期待と希望、少しの不安を胸に、ふる里を後にする人もいるでしょう。この冬の大雪で、陸の孤島となった新潟県津南町。そこで暮らしている住民の方が「ここを出て、他の土地に住みたい」と思ったことは？」と聞かれて、「雪が溶け出して、春の息吹を感じる時、四季折々の山の表情、それを見るためなら、雪ぐらい何だ！と思いません」と語っているのを、新聞で読みました。

自分の中で、大切にしたい、大事なおきたいふる里を持っている。素晴らしいこと

です。

昭和四十年代、人口十六万都市を誇り、道東の表玄関と呼ばれた釧路市。日本一の漁獲量に沸いた釧路港、そして良質の石炭を産出していた太平洋炭鉱、それがわたしのふる里でした。

今は見る影もなく、海岸線は、テトラポットで埋めつくされ、私が育った炭鉱の長屋は、一掃されてしまい、こ洒落た家々が建ち並んでおります。ボタ山は切り崩され、選炭場は撤去、地形までもが変わっています。それを目にした瞬間の寂寥感は、言い表す言葉がありません。真実私は、帰るべきふる里が、なくなつたと思つたものです。父や母、友が居るから。ふる里とは、決してそれだけのものではありません。自分を包みこんでくれる大地があるからこそ、

思うのです。

佐倉で生まれ、育つた息子が、転勤のため、福岡のマンション暮らしです。その彼が帰省の度に言います。「佐倉って緑が多くてホッとします」また、我が家の小さな庭を眺めながら「土つて何ていいんだろう」と。

佐倉市の緑も少なくなりました。京成電車の車窓から見えていた田や畑、それがいつの間にか掘り起こされ、黒い土だけになっていく所が多くなっています。今度は何に変身するのでしょうか？

子供たちのため、そのまた子供たちのためにも、緑多い大地を残しておいて欲しい。「ここが私のふる里です」と胸を張って言える風景を壊さないで欲しいと、切に願うのです。

(編集委員)



父と我が家のこと

父・松崎和一が九十四歳でなくなりましてから八度目の新年を迎え、遺品の中にありました松崎家由緒書を読み返してみました。大部分が草書の候文で書かれていて全く読めませんが、父が全文を現代語に訳してくれていました。母から「そんなに根を詰めては身体に毒ですよ」と言われながら九十歳を超えてもなお、連日夜遅くまで机に向かっていた父の姿を思い出しました。多分由緒書の現代語訳や『なかま』の仕事をしていたのであろうと思います。

由緒書に拠れば、一六七二年堀田家の家来として突然現われています。どこから分家したとか本家はどこか一切書かれていません。父が九代目で私が十代目です。祖父の代まではかなり詳しく書かれています。父の代については全く書かれていません。父

は七十歳までは家族のために寸暇を惜しんで働き、以後は『なかま』やシルバー人材センターなど地域社会に奉仕したり、由緒書を現代語に訳したりで自分の代のことを書く暇がなかったのだらうと思われまふ。もう少し長生きするつもりだったのかも知れませぬ。無念さを感じました。

由緒書で私が最も興味を持つていたのは、幕末維新に先祖はどうしていたかでした。江戸住まいと佐倉住まいをほぼ一年ごとに繰り返していたようですが、身近な出来事が書かれているだけで、残念ながら世の中の動きに関する記述は殆どありませんでした。下級武士であつたせいとか激動の時代であるという認識すら感じられませんでした。

(宮小路町 松崎 正剛)



七十歳になって思う

早いもので去年八月七十歳になり、家族が古希の祝いをしてくれました。幸い私自身は今まで健康で過ごしてきたが、昨年九月から医療費の支払いは三割から一割と大幅に負担が軽くなった。ゴルフ場ではゴルフ税は申告すれば免除される。大変有り難いことであるが、急速に少子高齢化社会がやってくる中でこのようなことが続くのだろうか。折角の有り難い制度だから素直に喜んだらどうだ、と言う人も多い。

しかし、七十歳になつても元気でゴルフができることは、経済的にも、健康にも恵まれている証であり喜ばしいことだと思ふ。これからは若い人たちと同じ税負担をしていつまでもゴルフを楽しめたらと思ふ。高齢者のことを考えてくれるならゴルフ場経営者が高齢者向けサービスを考えて

ほしい。例えばカートの利用料を割り引くとか、高齢者向けの割安ゴルフ会を開催する等知恵をだして欲しい。

年金、医療、福祉等高齢者に関する制度は高齢者の急速な増加と少子化によつて根本的に変更する時期にきており国会でも重要なテーマとなっている。対象になる我々高齢者が少しでも長く現役で活動でき、安心して人生を終えることを手助けする医療、福祉制度を真剣に考えて欲しい。少子高齢化社会にあつて高齢者は如何に生きるべきか、高齢者に対する教育指導も大切だと思ふ。同時に学校教育においても敬老精神だけでなく、高齢者の生き方を学び自分の問題として考える教育が必要と思ふ。思いつくままに書いたので独断と偏見多々ありと思ふが、お許し願う。

(八幡台 酒匂 幸男)



私とテニス

昨年末、家の近所にインドアのテニススクールが開校した。車で三分ほどの場所にあるうえ、第一期生には入会金免除やシューズプレゼントなど、さまざまな特典が付いていたので、軽い気持ちで入会した。

スクールは自己申告の実力別にクラス分けされていて、私はおそれ多くも上から二番目のクラスに入ってしまった。というのも、私のテニス歴は軟式テニスが二年ちよつと、硬式テニスが一年ほどしかない。硬式テニス一年というのも、週一回のテニススクールに通っていただけで、行く度に腰や筋を痛めてしまい、健康のために始めたつもりが、逆に不健康になってきている気がして足が遠のいてしまったのである。

そんな私なので、テニスの公式のルールなどわかるわけ

もなく（軟式テニスですらうる覚え）レッスンではコーチに言われるまま、黄色いボールを追いかけては打ち返すという動きを一時間半くり返しているだけなのだ。

それでも、ひたすら汗だくになりながらも必死に走り回っている、仕事であつたいやなことや、日々感じるストレスがそのときだけは汗と一緒に流れていってしまうような気がする。部活の練習後のすがすがしさなどを思い出したりもする。

傍から見れば本人が感じているほど爽やかな様子には見えないだろうが、これはもう自己満足の世界なのだ。目的は上達ではなくストレス解消。丁寧に指導してくださるコーチに悪いと思いつつも、すつきりした気持で家路に着くのである。

（王子台 山田 美和）



愛犬の思い出

私は昭和五十六年五月、横浜からここ佐倉市宮前に転居して来ました。主人は横浜の会社に勤務していましたから、通勤時間は三時間を超え、冬期は暗い中での辛い出勤でした。しかし、春になると、朝の五時は明るく、空気は澄み、沢山の野鳥が囀なげっています。当初は、まるで別世界に来たようでした。空気が良かったせい、か、中一の長女の喘息は、嘘のようにぴたりと治りました。

転居した翌年、長女は息弾ませて、「可愛い子犬を見つけましたよ！」と家に飛び込んできました。直ぐ家族全員で見に行き、皆が一目で気に入りました。生後四十五日の雑種で「シェプ」と名づけました。幼犬の頃は、まるで縫いぐるみのように可愛く、近所の人に愛され、散歩に出ると、毎回、小学生に「可愛い！」

と呼びかけられ、シェプも人間大好きな犬に成長しました。散歩は子供たちが喜んで出

しましたが、夕方行かれない時は、私が代わりました。この散歩が自分にとつても、次第に楽しみになり、宮前周辺はもとより、緑豊かな岩名運動公園を、しばしば歩くようになりました。あるとき、飯田の里山を登って、近隣の農家の野菜畑と、初めて見る田園風景を、楽しみながら歩いているうち、日も暮れかかり迷子になってしまいました。真っ暗な中、家で心配している子供たちを思いながら、シェプとひたすら歩き、知っている道に出たときは、ほんとうにホッとしました。帰宅したときの子供たちとシェプの喜びようを、昨日のように思い出します。

この犬も七年前、十五年二か月で一生涯を終えました…。

（宮前 亀田 永子）

3月の黒板

平成18年度佐倉市民カレッジ受講生募集のお知らせ

中央公民館では、少子・高齢社会の中で、皆様が健康で生きがいをもちながら、住みよいまちづくりを考える学習を目指し、四年制高齢者大学校「佐倉市民カレッジ」を開設しています。

入学資格 佐倉市内に在住する40歳以上で継続して通学できるかた。

(再入学はできません)

募集定員 100人(60歳以上80人 40歳以上～59歳以下20人)

(年齢は平成18年4月1日現在。定員を超えた場合は抽選)

願書受付 平成18年4月1日(土)～7日(金)午前9時30分～午後4時

中央公民館へ本人持参

学習日 主に火曜日(学習日数 年間36日程度)

修業年限 4か年

学習過程 [であい課程]2か年(第1・第2学年)[専攻課程]2か年(第3・4学年)

*詳しくは、入学案内・入学願書が市内の公民館・図書館にありますので、ご覧のうえご応募下さい。

お問い合わせ 佐倉市立中央公民館 (第2・第4月曜日は休館日です)

つくら道

市内を通る「水道道路」は市に聞いたところ「水道9号線」と名付けられている。この道路の下には印旛沼から取水し、千葉市にある「県営柏井浄水場」に送る水道管が敷設されている。私は住まいのある中志津からこの道路を、京成臼井駅までよくジョギングをする。片道五キロ、往復約十キロである。

途中七か所の信号があり、ストップを余儀なくされることがあるが、広い歩道があり人通りもあまり多くないので走りやすい。また三か所の坂があるが脚力の強化になる。この道路は江原で成田街道と交差するところで終わっている。この先の成田街道は歩道が狭く、とても走って佐倉市中心街まで行けない。非常に残念である。



あがとき



今年もまもなく、花粉症の季節がやってきます。スギ花粉の飛散開始日は、例年に比べてやや遅れると予測されており、飛散量も大量だった昨年に比べれば大幅に少ないと予想されていますが、油断はできません。春先の花粉症の原因となっている主な樹木は、スギとヒノキです。地域によって時間差はありますが、例

年だと大体、スギは二月から四月、ヒノキは三月から五月に飛散します。症状としては、くしゃみや鼻水、鼻づまり、涙が止まらない、目がかゆくなる、などです。

それは、花粉が付着しやすい目や鼻の粘膜で炎症が起きているからです。なかには頭痛や皮膚炎のような症状をとまなうこともあります。

「晴れ・高温・強風」などは要注意です。皆さんの投稿をお待ちしています。

(栗原)